

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム・ラポート
所在地 (県・市町村名)	大阪府泉佐野市長滝3735-1
記入者名 (管理者)	西川 由美子
記入日	平成 20年 11月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人権と福祉」をテーマとして、地域福祉の一翼を担い、「全ての人の人権を守る」そのことを理念として邁進したい、と考えています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念、運営方針をホール内に掲示し、意識的に毎日見るように努力しています。年頭に1年間のホームの目標を掲げよりよいサービスの提供に努めています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の訪問時に見やすい場所に掲げています。又毎月の請求書を郵送する際に使用する封筒にも「普通に生きる」を応援しますとコメントを入れています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣のお店に野菜を買いに行き、立ち話をしたり、珍しい物があれば届けていただいたりとの交流はありますが、限られた範囲のみです。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地条件も悪く、なかなか地域とのつながりを持つことが困難です。職員が住む地域の文化祭や保育所運動会等には参加しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	包括支援センターが催す認知症の勉強会等に職員が出向きアドバイスする機会等あれば積極的に参加しています。又地域での介護講座等にも参加しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回のミーティングに意見を出し合い、一人一人のケアの評価をしています。職員が全員発言し、以降のケアにつなげています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員のミーティングでの意見を報告し、再度取り組みに関しての助言を頂いたり参考にしています。又苦情なども報告し第三者の意見としてミーティングで報告し、話し合っています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	苦情は必ず報告し、困ったことなども相談しています。その中で施設の考え方なども伝えそのこともふまえた上で助言いただけるよう努力しています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今は現状としてありませんが以前、権利擁護につなげるため、包括支援センターの職員と協力し、家族への訪問など調整したことがあります。そのときは職員で権利擁護事業と成年後見制度の勉強会を開きました。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は常に意識し、職員の行動などに注意を払っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項の説明等、充分理解を頂けるよう努力しています。利用者様にも時間的な余裕を取ってもらい契約時間に充てています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情に関しては、運営推進会議にて報告し、意見を求めています。又、行政にも報告し、助言頂いたりと前向きに取り組んでいます。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>暮らしぶりに関しては請求書送付の際、お手紙にして投函したりしています。よく来所される家族に関しては直接お伝えしています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し意見を求めています。又重要事項説明書には苦情窓口等も記載しています。又特定の職員に関する事などであれば、隣接のデイサービスセンターで面談したり配慮しています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の考えていることや思いは素直に受け止めています。特にミーティングでは参加職員が全員発言できるような雰囲気、心をかけています。良い意見や提案は尊重し、ケアの実践等に活かしています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>通院が必要となった場合など、どうしても家族で対応が困難な場合なども含め職員を動員したり、勤務時間を超過したり、他の入居者様の迷惑にならないようにしています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者の移動も事業所内であるため、特に問題は生じないであろうと考え直近の管理者交代時は職員への説明のみ行いました。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	通達により職員には研修への参加の機会を作っていますが、家庭の事情も有り、研修はなかなか受講できていません。保育園児の子育て中であるとか、病気治療中など様々な事情を抱えている職員があり、市内の研修のみ受講となっています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りはできていません。事業所者説明会において、組織の必要瀬を提案された方もあり、次回の集まりにおいて具体化される可能性はあります。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	和室を利用し、テレビを見たり音楽を聴いたりと楽しく休憩時間を過ごしています。又休憩中は台所を開放し、好きな物が調理できるようにしています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	給料、賞与などは手渡しとしています。理事長(運営者)が直接手渡しできる機会を設け、その際勤務状況等把握したうえで、職員に対し、声かけて頂いています。励みになっています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会の回数を多く持ち、少しでも本人との関係が良い方向に持てるように努力しています。又、家族の思いもできるだけ聞き入れられるよう努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	他の施設から自施設へ変わる事を希望される方の相談内容と他施設からの聞き取りにはかなりの違いがあった。家族の思いを良く聞き、歩み寄ることで本人にとって良い形になるよう努力しました。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの相談には前向きに取り組んでいます。他の業務があっても家族との面談を優先し、時間をもうけるなど努力しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急避難的に入居されたケースが多く、その他の利用者に関してはデイサービス利用時に訪問し、なじみを作ったり、ヘルパーの支援中に自宅に訪問し会話を楽しんだりと段階的な支援を行いました。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は年齢的にばらつきがあり、息子や娘、孫にあたるような年齢の幅があります。味付けを見てもらったり、昔話を聞いたり、職員の家族の話をしたりと楽しく生活ができるよう支援しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問があれば、お客様ではなく本人の家族であることを意識し、食事介助に付いていただく事や排泄のお世話を手伝っていただくことなど、積極的に声かけをしています。又、不穏で対応ができにくいときは家族にお願いし、助けていただいたこともあります。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠になりがちな入居者の家族の方には月1回写真を送り近況を報告するなど支援しています。時々電話を入れ「OOちゃんげんきかな」と言っていることも伝え、訪問を促しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何人かに限られますが、友人の定期的な訪問があります。会話がとぎれないよう職員も一緒になり楽しいひとときを支援しています。又系列のデイサービスセンターへ訪問し、なじみの方と面会したり支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	「ここに座っていた人何処行ったん」と気遣う場面もおおく、入居者さん同士の良い関係が継続されるよう支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や死亡で契約が終了しているケースであり、入院先へお見舞いは定期的に行っています。行ったことが家族にわかるよう名刺を置いてきたりしています。又亡くなったケースではお盆などに訪問し、家族と一緒に故人を偲んでいます。結果困った事があれば電話で相談頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングでセンター方式の勉強会をしています。シートへの記入により本人の目線に合わせ、本人の思いに寄り添えるよう努力しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報収集に努めています。ただ、なかなか聞き取りができていく状況のケースが多く困っています。	○	アセスメントを見直し、今取り組んでいます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ミーティングにおいて、職員間での情報の共有を図っています。できることできないことなど気づいたことは書き留めるように努力しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	前回の評価で指摘された点を見直し、作成中です。	○	早急に仕上げられるよう努力しています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	前回の評価で指摘された点を見直し、作成中です。	○	早急に仕上げられるよう努力しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に活かせるよう記録書類の見直しも行いましたが無駄も多く、検討中です。	○	日誌等の整理も見直しています。家族が見て不愉快な思いをしないように注意しながらホームでの様子が目に浮かぶようであればいけないと感じています。今後の課題です。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	なじみの職員が支援できるよう調整し、柔軟な対応を心がけています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れを考え、市のボランティアの集まりには職員が参加し、なじみをつくる努力はしていますが支援にはつながっていません。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療面で利用できる訪問リハビリ等家族、医師と調整し、サービスの導入を行っているケースもありますが一件のみです。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーには地域包括支援センターの職員も入っているため会議の延長として助言を求めたり支援の協力を求めたりしています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどが協力病院が主治医となり往診を利用されています。通院など家族の負担軽減が目的のようです。医師と本人の関係は良好です。又必要があれば医師より家族に直接お話をされるなどしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけはミーティングなどで徹底しています。記録に関しては、ケース記録の持ち出しを希望し、チェックされている家族がいます。できるだけそのままの言葉で記入し、どのように対応したか記入しているので少し配慮に欠ける場合もあったかもしれません。	○ 家族と話し合いをしようと思います。家族へは現状をお伝えすると言う意味を考えると難しいです。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	わかりやすく説明しながら、納得いただいてから行動するように努めています。(入浴、排泄、食事の声かけや誘導等)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく入居者のリズムで支援していくことを徹底しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	髪型はカットボランティアの方に自分で希望を伝えていきます。服装もできるだけ自分で選んでいただいたりしています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日買い物に行くため、献立の相談をしています。一連の作業はなかなか難しく、テーブルを拭いたり、急須でお茶を注いでいただく程度です。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌を楽しんでおられる方が1名います。又特別な日には日中も飲酒されることがあります。健康面も考慮し、家族の確認も取るようにしています。又差し入れのおやつ等は積極的に声かけしながら召し上がっていただくようにしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	さりげないしぐさ等、職員間で情報を共有し、職員もさりげなくトイレ等に誘導しますが、耳が聞こえにくい方が多く、トイレへのお誘いが大げさになることもよくあります。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日声かけし入浴していましたが、体力的な面を考慮して隔日の入浴になっています。ただ本人の希望時や失禁時などは夜間を問わず支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	前回の評価で指摘があった部分ですが、ホールでくつろぐ入居者さんが多く、居眠りもします。お部屋に誘うもお部屋では落ち着かず、ホールに戻りソファ等で眠ったりします。その人らしい過ごし方だと思い、改善はしていません。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を聞き取ることが困難な入居者が多く、情報不足であるため今の状態に対しての支援になっています。	○	センター方式のシート記入を職員間で勉強し、少しの情報でも共有し、本人らしい生活の支援ができるよう努力したいと思います。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご自分で持ち、管理されている方が1名おられます。散髪の際に支払いをされます。地域の理髪店までの支援を行い、理髪店の協力をいただいていますのでお金のトラブルもありません。他の入居者はお持ちではありません。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力で墓参りや自宅での休息をされている方もあります。ただ緊急避難的に入居された方は家族の協力も期待できません。できるだけ買い物などの機会を作っていますが車椅子の利用者が多く、職員の対応では無理があります。	○	車椅子利用の入居者さんが多く、職員だけでは対応が難しくなっています。ボランティアの受け入れを具体化し、取り組んで行こうと推進会議等で助言していただいています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年度はお出かけ支援とお散歩支援に取り組んでいます。家族と担当になった職員が打ち合わせし、思い出の場所などの聞き取りを行い起案しました。体調の変化などで実現できていませんが、実現できるよう引き続き支援します。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される入居者に対しては、家族と予め相談し支援しています。七夕の願い事などはがきにコピーし、家族に送付する等支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人がお見えになると、他の入居者と共にホールでお話したり、お茶を召し上がったりされています。職員が近況を報告する中で入居前のお話などもお聞きする良い機会になっています。長い時間くつろいで過ごしていただいています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制ゼロ委員会を設置し、ケアの実践に結びつけています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階部分の有料老人ホームの入り口は、大きな道路に面しているため安全面を考慮し鍵をかけています。2階独自に鍵をかける時間はできるだけ少なくしていますが家族の希望もあり全く鍵をかけないケアの実現には結びつきません。	○	家族の理解が得られるよう引き続き努力していきます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必要に応じて、入り口扉に箱を挟み、夜間を通じて見守りを行うこともありますが、プライバシー保護に関しては充分配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所に関しては、目につきにくいところに保管しています。薬等はスタッフの更衣室に保管し、入居者の出入りも時々ありますが危険は防いでいます。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットへの記入を徹底させ、常に職員が目につく場所に置いています。振り帰りをしながら情報を共有し事故防止に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員の中でも急変時に対応ができるできないの知識や経験の差があります。今までに口頭では説明していましたが実際の訓練はできていません。	○	早急に応急手当などの勉強と訓練を実施したいと考えています。今までは管理者に連絡し、指示を仰ぎ行動していました。職員が責任を持って、初期対応ができるようにしていきます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の避難訓練は年1回ありますが夜間の訓練はしておらず、ご近所との協力体勢もできていません。	○	ご近所への協力体勢の要請は難しいですが、夜間の避難訓練は今年度中に行いたいと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒による骨折のリスクは常に家族の訪問時、ヒヤリハットでの報告も行っています。日中はできるだけ鍵をかけず自由に出入りできるようにしていること、そのリスクとして階段利用時の転倒など常に家族に説明しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変わったことがあれば、申し送りノートに記入し、情報を共有しています。必要があれば早急に受診の支援を考えたり家族に報告しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容をお薬手帳に貼り付け、職員が把握できるようにしています。又処方を変更した場合は皆で情報を共有し、必要があれば副作用等もチェックしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事を工夫し、個人的に違うメニューで対応することもあります。医師と相談しながらできるだけ自然に排泄できるように努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがいを徹底しています。ただ、拒否も多く食後に十分な水分を摂って頂くなどして対応しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養師作成の献立を参考に食事を作っています。又、分量も把握しやすいようにし、尿量とのバランスを保てるよう支援しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	医院とも連携し、流行等も視野に入れインフルエンザの予防などに取り組んでいます。又職員が見やすい場所に通達等回覧しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い物は新鮮な食材を毎日購入できるように努めています。又食器などは乾燥機に必ずかけています。毎日担当者がまな板などの清潔に努めチェック表に記入しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ご近所の方に頂いた植物を玄関で育てています。又2階フロア入り口では職員の顔写真で職員を紹介しています。訪問者は気軽にインターホンでお知らせさせていただきます。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは月ごとに壁紙を作成し、季節感を感じて頂いています。又、それぞれの背丈に合わせた椅子とテーブルで無理なく食事ができるよう工夫しています。光に関してはカーテンの利用で問題無いです。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファの利用により、個人個人がくつろげる様、努力しています。ホールに集まってきて居眠りしたり、塗り絵をしたりして過ごしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅での生活に近づけるよう家族と相談して進めています。家族との話し合いもなく荷物の持ち込みも不可能な入居者さんには職員が家具など持ち込んで、生活感が出るよう努めています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇の利用等で換気を心がけ、室温時計を常に意識し、マイナスイオンが発生する加湿器も活用しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの手すり等も身体的機能に合わせ、立ち上がり等がしやすいよう努めています。又ベットサイドの手すりや寝返り用の取っ手など工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できるだけ張り紙をし、入居者が混乱しないように努めています。個人に合ったメモ書き等家族と相談しながら整理しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の2階部分が住居であるため、玄関のお花の水やり等は困難ですが散歩に出たときは、植木をちぎったりなどしています。又洗面台に置いている植木の世話は積極的にしていただいています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)